

会 議 録（概要）

会議の名称	令和４年度第３回利活用促進部会
開催日時	令和５年２月１日（水） 午前１０時００分開会 午前１１時３０分閉会
場所	Web 開催（佐渡市役所（本庁舎）会議室棟 第３会議室）
議題	（１）一般家庭及び事業所を対象とした再エネ・省エネサービスの検討
会議の公開・非公開	公開
出席者	東北電力ソーラーｅチャージ(株) 佐渡ガス(株) 静岡ガス(株) 佐渡市地域循環社会推進協議会 (株)アドバンテック 渡辺産商(株) 尾畑酒造(株) 佐渡汽船(株) (株)第四北越銀行 (株)明電舎 佐渡明電サービス(株) MS 関東甲信越(株) サンフロンティア佐渡(株) (福)勇樹会 NTT 東日本（東日本電信電話(株)） <事務局> ・佐渡市 総合政策課 地域エネルギー係 係長 渡部達也 総合政策課 地域エネルギー係 主事 北見航希 ・大日本コンサルタント(株)
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	０人
備考	

会議の概要（主な発言等）

1 開会

2 議題 1) 一般家庭及び事業所を対象とした再エネ・省エネサービスの検討

・12月4日にアイポート佐渡でセミナーに出展参加し、お客様から新築よりも既存住宅のリノベやリフォームの際に太陽光を導入したいという要望を多く聞いた。PPAを行う会社や太陽光設備を販売して設置する会社など、両極から情報を拾い、取組を進めていけたらと考えている。また、太陽光を入れるメリットをPRする必要がある。そこで、既に取り入れている方を佐渡太陽光のモニターとして協力いただきPRできればと考えている。

・使う側の住民のことを考えると、太陽光、蓄電池、省エネ、ZEHなど導入後のメリットを明確にすべきである。EMSの導入事例として、どれくらい発電し電気代やCO2が削減できたかなどメリットの提示、見える化し周知することで導入にもつながると考えている。

・具体的な成功事例を提示する。そのためには成功事例を作ることが利活用促進には必要だと考えている。太陽光や蓄電池を入れた場合の費用などを明確に見える化し、それに対してコストメリットがない場合は、どの程度の補助金が必要になるかなど検討し、具体的に詰めていく必要がある。停電や災害があった際の蓄電池の役割などメリットを発信することも有効だと考えている。興味を持っているユーザーに説明していく体制を作ることが重要である。

・公共施設や工場の事業所で実際にどの程度の電力が使用されているかを調べながら、削減量等のメリットをお知らせできればと考えている。そのためには現状を把握することが重要。効率の悪い設備が入っている施設などを点検し、改善できるところを見つけて、必要な再エネ設備を入れていくことが大事だと考えている。住民に対しては実際に自分たちでイメージできることを伝えたいと提案・実行が必要と考えている。

・一般家庭の方は太陽光発電に関する知見がないと思うので、例えば、瓦屋根パターンや折板屋根パターンなどモデルを作り、何年で投資回収できるかを情報発信してはどうだろうか。

・災害時の利活用はコスト負担があっても行った方が良くないと発信することが重要だと考えている。市全体の再エネ発電量や自給率など見える化し、発信することで島内外の方に身近に感じてもらえる方法もあるかと考えている。島内に弊社の施設が20施設ほどあるので、太陽光発電の導入や施設内のグリーン化を進めていき、取組を発信できればと考えている。

・目に見えるものを作るため、取り掛かりたいと思っている。リフォームの需要があると話があったが、リフォーム相談会で情報収集を行い、モニター制度的な無料で設備を提供するなどして結果を出していくことも良いのではと考えている。

・太陽光発電は10年で元が取れる設備であるなど、経済面だけで話をするのは良くない。それだと補助金がなくなったら取組が続かなくなってしまう、持続性が確保できないの

ではないかと感じている。太陽光発電を導入した家庭の実績効果を公表しPRできればと考えている。部会の進め方については、具体的なプレイヤーをそろそろ詰めていくべきだと思う。議論だけでなく、各社の取組やできることを開示して、住宅会社とも詰めていく進め方も良いかと考えている。

- ・太陽光発電の課題はいろいろなサービスや商品があるので、どれを選べば良いか分かりにくいことのほか、最大の問題はコストが高くなることが挙げられる。そこで、公共の入札制度を一部活用し、太陽光の共同入札を佐渡市が行い、一番安くて良いものを選定して、一般の消費者に導入する方法が全国的にも始まっているのでこのようなサービスで普及していくのも良いと考えている